

冬山合宿

89~90 報告書



信州大学山岳会

行程表

	樽の森駅 T-S	天狗原 T-S	天池荘 T-S	2730m テホ	三田境	白馬岳	三田境下 T-S	雪割堤 T-S	テホ
12/23	→								
12/24		本 →	テホ →	←					
12/25				←	←	←			
12/26							本 →	テホ →	←
12/27								←	←
1/1								回4 →	←
1/2								回4 →	←
1/3			←	←	←	←			
1/4	←	←							

12/28 ~ 12/31 沈殿

12月23日 (土) ㊦一〇

ゴンドラ榎の森駅(9:16) - 成城大学小屋(11:20) - 天狗原T. S

前日松本駅にステーションビバークし、電車、タクシー、ゴンドラと乗り継いで、榎の森駅から入山する。ワカンを着け、成城大学小屋まで林道を歩き、尾根に入る。シングルボッカなのできつかったが、天気はどっ晴れでまるで春山のようだった。

12月24日 (日) ㊦一㊦

T. S (7:10) - 大池山荘T. S (10:10)

大池山荘T. S (11:00) - デボ地点 - T. S (14:20)

今日もシングルボッカ。天狗原から乗鞍へはまっすぐ登り、右手の灌木帯が切れるあたりから右上してルンゼに入る。乗鞍の下りは夏道どうり。池を横断して大池山荘へ。小屋のとなりにテントを張る。

デボ隊(内田(L)、松下、小久保、服部、牧野、植垣、河西、兼岩)で小蓮華手前の2730m付近までデボをのぼす。デボ隊が帰ってくる頃には吹雪になっていた。(ダンバコ8、ガス151、Fix具をデボする。)

12月25日 (月) 〇

T. S (7:30) - デボ地点(9:15) - 三国境(11:25) - 白馬岳(12:12) - 三国境付近の台地T. S (13:10)

ワカンで尾根に取り付くが1ピッチでアイゼンに履きかえる。デボ地点でシングルボッカにする。三国境まで所々しかクラストしていない。三国境に荷物をデボし、白馬岳をピストンする。雪尻もあまり発達していない。天気は快晴ですばらしい展望だ。三国境から100mほど下った台地をT. Sとする。

12月26日 (火) ㊦

T. S (7:30) - 雪倉避難小屋(10:10)

小屋(10:30) - デボ地点: 夏道が支稜に入る地点(11:20) - 小屋(12:40)

シングルボッカでT. S発。鉢ヶ岳は夏道どうりトラバースするが、間隔を開けると、人数が多いために時間がかかる。

小屋からデポ隊（下平（L）、牧野、松下、小久保、服部、河西、加藤、長谷川）でデポをのぼす。（ダンバコ8、ガス15L、Fix具をデポする。）雪倉は夏道が主稜線とぶつかる地点からトラバースして越える。夏道が主稜線からはなれ東北東方向に落ちている支稜に入る地点にデポする。支稜を少し下ってみるが、フカフカの雪でありよくない。小屋に帰った後で天気は崩れ、視界10m程度のブリザードが吹き荒れる。

12月27日（水） ㊦

小屋(7:10) - デポ地点(8:30) - 小屋(10:40)

朝方風が若干弱まったの出先に進むべく出発したが、デポ地点に着く頃には視界20m程になり、小久保と河西が支稜を少し下るが、視界が全く効かず雪の状態も絶悪なので先には進めないと判断し、小屋に引き返す。温度の高いブリザードが吹き荒れ海老の尻尾がすぐに発達する。冬型が強くなってきている。長期戦になる可能性がでてきた。

（デポ地点にダンバコ7、ガス10L、Fix具、竹ボールを残す。）

12月28日（木） ～ 12月31日（日） ㊦

沈殿！

小屋を壊さんとばかりに風が吹き荒れ、閉じ込められた我々はすることもなし。このままいけば寝正月になってしまう。

1月1日（月） ㊦

5日間の沈殿で、食料とガソリンが心細くなってきた。既に28日からガスを節約するためにおやつを作っていない。天気は相変わらずだがデポを回収に行くことにする。

10:15にデポ回収隊（内田（L）、松下、小久保、服部、牧野）を出す。雪倉の稜線にでるあたりで、松下が足の痛みを訴え、内田と松下で11:50に小屋に帰る。小久保、服部、牧野は回収に向かうが、雪倉の北側の斜面が下れず引き返す。しかし南側の斜面にかかるあたりで帰路を見失い、13:15にツェルトに入って待機するとシーバーで連絡する。13:45に下平と松下がサポートに出発し、14:20に稜線付近で3人と合流。14:45に小屋に帰る。

デポ回収ができなかったため食いのぼしを始める。

1月2日 (水) ㊦

小屋11:10-デポ地点12:00-小屋13:20

今日も天気は相変わらずだが再びデポ回収に行く。メンバーは下平(シ)、牧野、服部、植垣、兼岩。ブリザードの中を夏道を忠実にたどってデポ地点にいき、ダンバコ5、ガス101、Fix具を回収し、トレースをたどって小屋へ帰る。雪倉山頂付近では風が強く、顔面凍傷になってしまった。

1月3日 (木) ㊦

小屋(7:30)-小蓮華岳(12:10)-大池山荘T.S(15:25)

風はあまり強くなく視界は50m程。小屋を出発し稜線どうして鉢ヶ岳へ、下りは尾根をたどりコル手前で岩稜を避け西へ回り込んでコルへでる。磁石を見ながら三国境を過ぎ小蓮華の稜線にでる。ここより先は胸までのラッセルを強いられ(MEAC)の赤旗と微かなトレースをたどって下る。途中富山県警山岳救助隊に会う。トレースは富山県警のものだった。彼らは大池への下降路を見失っていたようで、我々が先に立ち苦しいラッセルの末大池山荘に到着する。

1月4日 (金) ㊦①

T.S(7:45)-天狗原(10:40)-ゴンドラ楯の森駅(15:45)

ブリザードで視界の無いままT.S発。磁石を見ながら池をわたり、赤旗と磁石で乗鞍を越える。天狗原への下りはルンゼから東へと向い、右によりつつ下ると、下から登ってきた4人のパーティーに出会い、後はそのトレースをたどる。このあたりから視界が効くようになってきた。天狗原でトレースは消え祠へでて一本。祠から赤旗をたどり成城大小屋に着く頃にはドッ晴れになっていた。

冬合宿会計報告

収入	合宿費	300,000	—	
	残留部員から	18,000	—	
	宮崎先生から	5,000	—	
	フレンド残金	1,249	—	
計		324,249	—	
支出	FG	26,067	—	(1738円/人)
	FS	176,302	△	(619円/人・日)
	酒	4,960	—	
	交通費	82,760	—	(5517円/人)
	うちあけ代	30,000	—	
計		320,089	—	
	残高	4,160	—	松本の部費に 河内

エッセーの反省

- ・トーフ・ミールは、60%にしたら良い。
- ・カレーは、辛すぎるものはよくない。
- ・よ米は、0.8%で良かったと思う。

準備の段階で、不足分ができてしまった。松電で注文した時は、その場で数をチェックする必要がある。また、どうも部室に部外者が侵入し、盗んでいるようなので、自衛策を講じなければならぬ。

軽量化は、これからも、と考えなければいけないことだが、その行き過ぎは危険である。今回のように、食い伸ばしになったときに、困るであろう。(兼岩)

装備

ガス 行動時 112 cc/日

沈殿時 110 cc/日

メタ 17本/日

ろうそく 0.58本/日

今回はガスの量を140ccから120ccに減らした。結果的には小屋で長期沈殿ということでかなり苦しくなった。軽量化かゆりの装備かは難しい問題だと思う。あと、ガスの小物を忘れたのは失敗でした。

フレ冬合宿

11/23 松本 — 扇沢出合 — 2,450m (南尾根上) T.S
 6:40 14:00

途中歩まで夏道を行くが、崩れをりな急斜面が前方に見えてきたので、せふせこいで會尾根に出た。夏道はトレスかあった。尾根に出るまではひがまでのうっセル。

11/24 T.S — 飯南峰 — 冷池山前 T.S
 7:10 8:30 11:10

南峰の直下からアイゼン。うっセルはなし。

11/25 T.S — 鹿島槍南峰 — T.S — 林道 — 部屋
 6:15 8:10 10:00~11:00 15:45

樹林帯はひがまでのうっセル。その先は雪はとんでいった。寺岩尾根のていきは、夏道と同じ下りにトレスした。フィックスは、尾根上に出るまででけり。

フレ冬会計報告

収入	合宿費	187000 —	
支出	Eg	16,104 —	(947円/人)
	Es	76,377 —	(840円/日・人)
	交通費	88000 —	
	酒	4770 —	

残高 1749 —

総会の交通費として500—
 冬合宿に 1249 —

フレ冬 エッセツの反省

- ・トーフミールを実験できなかった。
- ・あとは、問題なし

(兼岩)

装備の反省

ガス 97cc/人・日

ろうそく $\frac{1}{3}$ 本/日

メタ 18本/日

目覚まし時計が装備袋からみつからなく、使えなかつたらしい。
袋の中も小袋などに分けて入れ、必要なときにすぐ取り出せるように整理する必要がある。

個人山行

11/17 遠征記録、松平、荒志、小笠原、藤江。
7:30 ① 塩川小屋。

12:10 ② 三伏峠小屋。

11/18 6:00 ① 小屋究。
6:50 本谷山。雪が少なく、夏道通して塩見小屋
8:45 塩見小屋。87. 毛織アセシをはく。
積雪 15~20cm. 2-7カを見整す。
10:20 塩見岳。
14:50 ① 三伏峠小屋。

11/19 8:10 ② 小屋究。
11:30 塩川小屋。

個人の反省

今年の冬合宿は 天気予報どおり年末年始にかけて大荒れになり、更偵 1週間も沈殿するという結果になった。しかし、上級生下級生ともに、小屋じまりとはいえ、よく精神をコントロールして耐えていたと思う。

下山することになった以後は、視界も悪く、ルートファイルテックが困難で、しかも厳しいラッセルの中、みんなよく頑張ったと思う。

今年の状態であのルートが下れるのはやはり大きな力だと実感した。

リーダーとしての任分を振りかえ、と見ると計画段階でガスや水の量を少なくしすぎたことや、テホする食糧や装備の量が適量でなかったなどミスが多かった。また、厳しい状態になる程、人数を動かすことは難しいと改めて実感した。

またよく考えと見ると今回のルートはエスケープも少なく、ルート中の雪崩の可能性のある所もあり、やはり合宿として成功する可能性の低いルートであったと思う。今後、もっと少人数でカチのアルパーティーを組む、軽量化して、スピードアップを体かっつてこそ成功する山城だと思ふ。

冬合宿

今回の合宿は残念ながら目標の日本海にははけるかに及ばなかった。天候が相当に悪く仕方の悪い部分も多かったが我が計画予想が甘かった部分も多々あったと思う。これからこの山域を目指す場合にはより巻いて計画すべきであろう。下級生はこの経験をう度に生かしてほしい。

— 内田 —

フレ冬

今回は天気にも恵まれて楽しい山行か
でさきました。ワカンが使えませんでした
が冬合宿で使った下さ。FIXはよく
存入です早く張れようにはしませう。

内田

今回の合宿では元旦のテボ回収での失敗が
一番反省される。しかし悪天の中でも行動できる
自信が少しはついたおま気かする。1年生は停滞
ばかりでつまらなかったと思うか。もうすぐ2年生に
なるのだから、新人合宿までの1つ1つの山行におい
て積極的に考え行動して欲しいと思う。

ハトリ

今回の合宿は悪天に恵まれて1週間以上も
小屋に缶詰めにされてしまい、裏日本の冬の
厳しさをまざまざと見せつけられ、なかなか
いい経験をしたのではないかと僕は思う。
しかし、この長丁場の際に、食料、燃料の
計算が、いまいちあまかったり、小屋の中
ではふもじい思いをするはめにたまってしま
ったのは、今回の合宿の問題点であった。これから
はしっかりと準備し、知恵をいっしょにしよう。(松下)

隊全体を見たり老えたりすることがうまくなっていった。
また、去年からは、ワカンとアイゼンの両方使える
ところへ行くのが良いと思います。 (2F)

植田健太郎

あんなに毎日寝て暮らしたことは、かつて一度も
無かった。白馬を越えるまで好天に恵まれ、頭の中
には日本海しか見えていなかっただけに、残念
だ。しかし、おそに避難小屋が世かたら？なんて
考えることは、恐しくて私にはできません。

ホワイトアウトになった時、自分は、カンを頼りに
突進する傾向があるようなので、もっと慎重になる
べきだ。また、ほっぺを凍傷にやられてしまったこと
についても反省。

海拔0mを目差して山登りをするのは、不純な
でしょうか。

冬合宿の反省

今回の合宿は、実際動いたのが、6日間だけだったが、
ホワイトアウト時の行動が多く、考えさせられた点か
多々あった。ホワイトアウトでも、安全に、素早く行動できる
力を今後つけていきたい。(兼岩)

縦走を成功させることができず大変残念であり、一週間近く
沈滞していたため向のぬけたような合宿であった。去年とは違い
悪天候の中行動し本来の冬山を体験できたのはこれからの
ためにとってもよかったと思う。ただ雪崩に対してはまだまだ勉
強不足でもあり、経験不足でもあった。

今となっては“オニの冬合宿”を成功させ、悪天候の中でも、ヤバイ
ところでも先頭にたつて隊を引っ張っていく上級になるのが目標だ
ある

河西貴史

反省

今回の合宿はたににたにただけという感じで、積極性に欠けていた。今後は意識的に自分から動いて合宿に取りくめたい。

長谷川

骨折で1ヶ月ほどブランクがあったので冬合宿は不安なものがあった。失敗に終わったもののとりあえず無事に終了してほっとしている。このような悪天候の冬山は初めてであったので、冬山の恐しさを認識させられた。あとFixをする機会がなかったのが残念だった。

加藤

今回の合宿は反省することが多い。まず合宿の全般にわたって前向きな姿勢で事に取り組むといった積極性に乏しかったように思う。日程が長期なのでひるんでいた部分もあった。また緊張感も足りなかった。何度締めてもすぐゆるんでしまうワカンなどはその事の表われたりもした。特に最終日、イーターのシュラフを改修飛ばされておやうく紛失しかかったことなどは大失敗だった。組のことではまずハイキングが下手なので何度も苦しい思いをしていた。また小まめにビーターを出して着たり、記録をつけたり、休けいのときホッとしてきないことがあったのはよくなかった。最後に今後の合宿はもっと気を引き締めて頑張りたい。

小遠

冬合宿が終るととにかくホッとした。この合宿も体力不足を痛切に感じた。合宿にむけてかなり精力的にトレーニングしたつもりだったがトレーニングの組み立ても甘すぎたあたりがもたない。あと輪軸のつかかたがどいそまがった(ば)ってから心も落ちるがないうちははずれてうたなっていた。そのめ足が雪に70%以上にもぐりこんでしまいいるなり体力を溶かしてしま。こたえのことをあらためて次の山行に望みたい

し橋

最初のうち、細かい事を注意されたり、ブスの足を2本なくしてしまったりと、エッセンがなかなかうまくいかなかった。天気図が今回もあまりうまく書くことが出来なかったが、沈んでくると他の人が書いているのを見る機会が多かった。なので色々参考になった。~~でも~~冬合宿は体力勝負と前々からいわれていたが、正にその通りで、トレーニングもして思ったよりは歩けたつもりだったが、前の人との間隔は空くばかりで何度も待ってもらって、~~結局~~しまり残念だった。

藤江

プロ冬合宿、冬合宿と初めての冬山の体験はあけたが、また反省点として何より、雪上技術、自己管理の未熟が思いつく。これからの経験により直していく事柄でもあるのだが、実際の行動の次点で、惰性で怠った点あり、気をつけたい。又、積極的に地図を見ながら事も反省点として思いついた。何はともあれ無事めで、冬山の良さを味わえ、良かった。けど冬合宿は残念。

(田尻)

編集後記

合宿の後、いろいろなことがあり、かなり月日の経てからの編集となってしまった。今となっては雪倉での沈殿の日々は昔のことのように思われる。来年度は厳しい一年になると思うが、なんとかがんばりたいものである。

冬山報告書

平成2年 3月30日

発行 上田



信州大学山岳会